

たった一度の失敗が
自分を壊すような気がして
踏み出せずここまで来たのが一番の失態だ

気持ちはあるのに技術がなくて
そう言って逃げてきた自分とは
もうさよなら

慣れない手つきで、足りない力で
何かを掴もうとしている自分が愛おしい

その花がひらくのが
自分が思っているよりもずっと遅くても

水をやって光を浴びて咲いた時に
どこかの誰かの時間を埋められるなら

ほんの些細なことで、
涙を流すこともあったけど

それがあったから
強く生きれるようになった

価値を理解するまでに時間がかかる
そこが少し厄介なことだけどね

立ち止まったことも悪いトコじゃない
未来の糧になって進めているから

この花が開いたら、
枯らす事のないまま残せたら

時が満ちて、どこかの場所で眠るときも

形が無くてもいつまでも生きて行ける

長いようであつという間に過ぎる時間
その中で、何を見つければいい？

芽が出なくて、泥だらけになって

周りの花に先を越されても

不器用に伸びていけ

その花が開いたら
どんな色や姿をみせるかな

きっと
胸を張って前を向いて叫ぶ声が
どこかの誰かの心に響いている